

# スプレー菊のつくり方

## 菊花大会をめざしたワンランク上のつくり方



### 知っておきたいスプレー菊の性格

- 菊花大会に出品するスプレー菊は秋咲きのタイプが使われます。秋咲きのタイプは日照時間が短くなると花芽分化し開花する短日性のものです（大菊と同じ）。
- 摘蕾せずに枝咲きで（房咲き仕立）開花させる作り方が特徴で一番花（頂花）が高く一定以上の花首があり、枝ぶりの良い菊です。
- 花首が長く伸びやかで優美な草姿であり、花の色は鮮やかで花色は豊富です。導入当時のスプレー菊の特徴を残したものを作りたい。
- 長日下（8月中旬以前）葉ッパが30～40枚つくと柳芽がつき枝は分枝されます。品種により少ない枚数で柳芽の発生するものとそうでないものがあります。

（注）小菊と交雑した花屋の店頭にならんでいる仏花に使われるものではありません。この種の花はスプレー菊本来の特徴は失われています。

### 出品規定 審査規定 7号3株植え

全日本菊花連盟の出品規定と審査基準を紹介します。

### 全菊連全国大会出品規定

- スプレー菊3株植え鉢作りは、鉢の下端から最上位の花頂の高さが75cm以上110cm以下とし、無摘芯で茎数は3本とします。
- 鉢は菊鉢7号の駄温鉢・素焼き鉢・プラスチック製の菊鉢のいずれでもよいです。
- 鉢上面の水苔は取り除き、支柱・ビニタイ（クイックタイ）はグリーン色とします。



### 全国菊花大会 審査基準（抜粋）

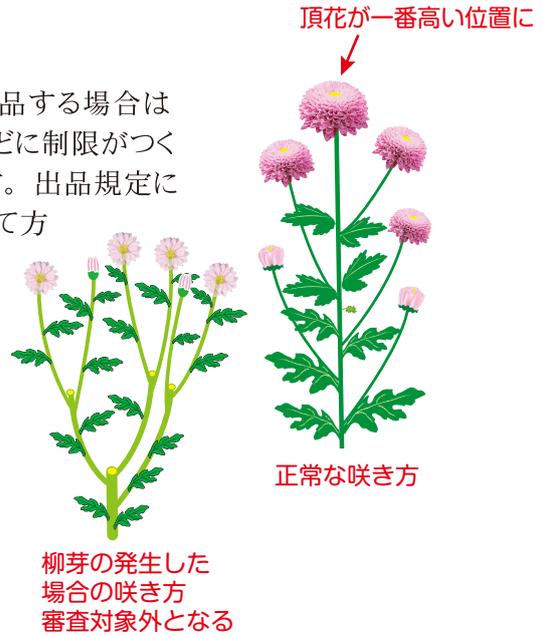
- 花は鮮度を保ち、花と花が重ならず適当な間隔を保つこと。
- 頂花が他の花より低い位置にないこと、及び花心は青味があること。
- 着色蕾は残し、他の蕾は除去するのが望ましいです。
- 全体的にバランス良く、支柱はグリーン色とします。また、括り紐はグリーン色のクイックタイとします。
- 無駄枝や蕾等を除去した場合、見苦しくないよう処理すること。
- 水苔、冬至芽などは取り除くこと。
- 3株植えとし、無摘芯で茎数は3本とします。

## 7号鉢3株植え無摘芯栽培仕立ての作り方

### 菊花大会にも出品できる作り方です

- ・7号鉢に同じ品種を3株植え摘芯をしないで育てる作りです。  
花・下部の葉・鉢のバランスがよく、ボリュームがあり、見映えのする作り方です。
- ・この仕立て方は大菊とは違い「天・地・人」の考え方はなく、どの方向から見ても同じように育てるのが特徴です。
- ・房咲きとなりますが、頂花が一番高い位置にくるように育てます。このように調整することは高度な技術と経験が必要となります。この問題は品種選びを主に考えた方が良さそうです。

※菊花大会に出品する場合は全体の背丈などに制限がつく場合があります。出品規定に合わせた仕立て方が必要です。



### 3株の高さをそろえるには苗づくりが最大のポイント

そろった苗



そろったサシ穂



葉っぱと葉っぱの間(節間)は色々です。



3株とも背丈・幹の太さ・葉っぱの大きさ・根量などができる限り同じような苗を定植することが成功のポイントです。「ヘタな鉄砲も数撃ちゃ当たる」の考え方で数多くの苗を作り、その中でよい物を選ぶ方法もありますが、場所や労力が必要となり効率がよい方法とは言えません。

そろった苗を作る為には“サシ穂”が重要であり、太さ、葉数などできる限り大きさのそろったサシ穂を採穂することを考えなくてはなりません。

したがって親株の管理は肥料の与え方、摘芯の時期、伸びてきた側芽の生長具合の調整などをします。

特に摘芯後の側芽の発生本数や伸び具合は同じ品種であっても親株の体力、草勢などにより変わってきます。

そこで側芽の数を調整することでサシ穂の太さ、大きさの均一化と採穂時期の統一化に努めます。摘芯後、親株から3~5本位は側芽が発生します。

ところが親株の体力に見合った数の側芽が発生しているとは限りません。

そこで生育の遅れている親株は側芽を切り取り、数を減らし、栄養分を集中し充実を図ります。

——そしてサシ穂を採穂する上で最も重要なことは

できる限り低い位置(表土からの葉っぱの枚数の少ない)

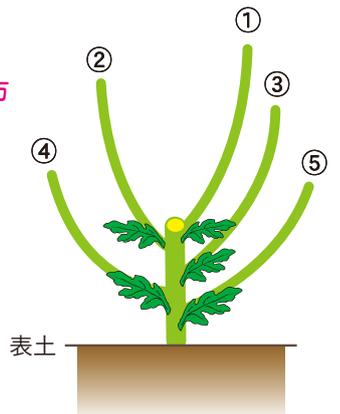
から取ることです——

親株の摘芯は表土から15センチくらいのところで摘芯し側枝の生育を促します。摘芯後発生する側芽も15~20センチ又は側芽に発生した葉1~2枚を残し切り取る。サシ穂は5~6枚展開葉を残し調整します。(側枝は発生した下部の2~3枚は徒長している場合があります)

側枝は発生した下部の2~3枚は徒長している場合があります)

#### 充実したサシ穂の取り方

側枝の生長が遅れている場合はその状況により⑥又は④⑥を切り取り栄養分を集中しサシ穂の充実を図る。



(右) 摘芯後の葉2枚目までが徒長している為側枝は長い。長さのみでは決められない部分があります

(左) 使いやすいサシ穂が取れる。

## スリットポットを使いサシ芽と育苗は切れ目のない管理をする

通常のサシ芽は1～2センチ発根したところで鉢上げをし、後は小鉢（又はポット）で育苗管理をします。

ポット挿しの場合は発根するまで（10～12日くらい）はサシ芽の管理をし、発根後に液肥を与え、さらに5日間隔で液肥を与え20～25センチを目安に鉢上げします。（15～20センチくらいになったらピーナインを散布します）

こうすることで背丈のそろいを見極めることができ、最終的な高さが合わせやすくなります。



発根後の状態で7～10日液肥を与えて育てる

## 根力を高める定植法…花が大きく花数が増す スプレー菊の魅力倍増

### フワフワ植えはしおれやすく、根付くのに時間がかかる



対策  
➔



株元を  
しっかりおさえる

定植の方法は「初めてのスプレー菊の作り方」で説明したとおりです。

植え方は棒切れ等で突きながら固く培養土を詰めて定植します。こうして植えることで根は分根をくり返しながらか鉢のすみずみまで張っていきます。

しかも活力が高く、働きが強く、水や肥料を吸収する力の強い根となります。

“菊は根張り”と言われていますがスプレー菊も同様です。

茎葉は根の体力以上のものではできません。しっかりした根張りを作ることで花の大きさ、花つきもよくなります。

植え付ける時に特に注意したいことは、鉢の中段以下は棒切れで突きやすい為にしっかりとしまっていますが、苗を植えた上層の土は突きにくく、特に苗のまわりはさらに突きにくい状態となる為、指でしっかりと押さえ込んで植えます。

この部分の培養土がしっかりと詰められていないと、毛細管の原理が働かない為、下部から水分が上がらなくなってしまいます。こうなると活着が悪くしおれやすくなり、初期生育が遅れてしまいます。

スプレー菊は初期生育が遅れると栽培期間が短い為に生育が遅れ取り返しのつかないこととなります。

わずかな手落ちが大きな問題となりますので要注意です。

## 肥料の与え方…スプレー菊の肥料を中心に液肥を使いまわす

乾燥肥料は「スプレー菊の肥料」を定植時に与え、第2回目を8月下旬に与えます。1回の施肥量は25～30グラム程度です。

液肥は質の高い「アミノPK」を中心に草勢を見ながら「アミノ液肥 555」を使用すると充実した木つくりとなり葉色も鮮やかな緑となります。与え過ぎないように

する。

9月下旬よりは花の色を鮮明にし、スプレー菊の特徴を際立たせる「こくなある」がおすすめです。

使用間隔は5～7日、倍率は500～1000倍で使用します。

### ● 葉色・花色がひときわよくなる液体肥料・乾燥肥料



### ● 病気の出にくい活力剤

### ● 生育もよくなる



## わい化剤ビーナインの使い方

ビーナインは葉っぱと葉っぱの間（節間）の伸びを抑える資材です。効果は約15日程度続きます。

定植後8月上旬に一度さらに2回目は8月下旬に芽先を中心に散布します。

使用倍率は500倍が目安です。8月下旬の2回目は規定内に納まるかどうかの判断をし、倍率及び必要かどうかの見通しを立てます。

9月に入ってから散布は花首の伸び方に影響が出る場合がありますので行いません。

ビーナインの効果は草勢及び栽培環境により変わる為、同一品種であっても同じ効果が出るとは限りません。最終的には経験により修正しご自身の方法を持つ必要があると思います。

**（注）** ビーナインの効果は倍率の他、シュッと一回掛ける場合とシュッシュッシュと3回掛けたのでは効果が変わってくる為、自分流を決めておくことが大切です。

## 電 照

スプレー菊は柳芽が発生し分枝すると審査の対象からはずれてしまう。またご自分で鑑賞するにしても草姿が大きく乱れてしまう。その為に長日処理をし柳芽の発生を予防します。

長日処理は日没から3～4時間点灯し昼間の時間を長くする方法か、0時を中心に4時間程度点灯する方法があります。60ワット相当のLED電球で高さ約

1.8メートルで1.8メートル四方の面積に有効です。長日処理の期間は植え付けと同時に開始し、9月上旬くらいまで行います。それが目安となります。

サシ芽の段階で柳芽をつけるものもありますので電照をする目的によって電照する期間や時期も変わってきます。

## そ の 他 ここも気配り

- ウィルス感染のうたがいのある親株や生育の悪い株からはサシ穂はとらない。

正常の葉



ウィルス感染株？



- 遮光ネット

スプレー菊は自然光の半分くらいの明るさに制限した方が花の色、葉の色、生育ともによい。

## 6号鉢一株植え

6号鉢一株植は切り花でコンテストにも用いられる仕立て方で、周囲から平均に光が当たる為、花数が多く花の配列は均一です。

また品種の特性が一番現れやすい植え方です。

この植え方は苗を6号鉢に植えて育てるだけですから「育てる気持ちさえあれば」簡単にできます。

根付けは7号三株植えよりやや遅い8月15日頃が目安です。したがって挿し芽は7月20～25日頃が目安となります。

植え付けには鉢の中央に苗を置き、しっかりと培養土を詰めて植えるだけです。

気配りが必要な点は鉢に対して茎葉が大きい為倒れやすい点と支柱の固定に工夫が必要なことです。（菊花展に出品する為などの運搬が必要な時）



お申込み・お問い合わせは

ウチダケミカルコーポレーション

Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12 郵便振替 00820-6-96628

2018年5、6月にかわらばんと同送した“スプレー菊のつくり方”をご参照ください。  
HPにも同じ物を掲載しています。「ウチダケミカル スプレー菊のつくり方」で検索してください。

菊花大会に出品する為には、出品規定があり、高さや仕立ての方法が決まっています。全菊連の出品規定では鉢の下端から最上位の花頂の高さが75センチ以上110センチ以下とし、芽数は3本となっています（全国的にこの規定に準じていると思います）又、天・地・人の考え方はなく、どこから見ても同じように見えること、高さは3株とも同じ高さに育てます。

高さをそろえるのは簡単ではありません。まず3株そろった苗でスタートしよう。

1鉢育てる為には最低5～6本の苗を育てる。できる限り伸ばして高さのそろった3株を選び、定植する。10～15センチくらい伸びたところで背丈をおさえる為、ピーナインを散布する。（500倍くらいが目安）サシ芽の時期は7月10～15日くらいが目安です。8月10日頃が定植の目安です。

ポット挿し……ポットの外周に寄せて挿す

こだわるならこの方法（7号鉢3株植え向き）

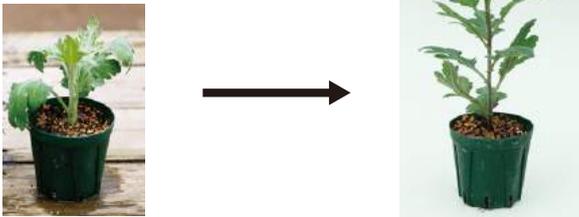


定植……背丈と草勢のそろった苗を植える



ポットの中央に挿す

こだわって育てるならおすすめしません。  
（6号鉢一株植え又は切り花向き）



箱挿し……育苗箱の側壁近くに挿す



サシ芽は側壁のできる限り近くに挿す。  
ポット挿しの外周近くと同じ意味

肥料関係… 大会に出品するなら

定植には「りんのちから」を使用しますが、大会出品では木づくりも重要です。  
追肥は「菊養源 6-6-5」や「アミノパワー」の使用も考えられます。  
液肥は「みらい」「アミノ液肥 555」「アミノPK」の使用もあります。  
花色も重要となる為「こくな～」で花色をより鮮明に仕上げることも大切です。  
肥料が残ると花卉の奇形が出ることがあり、肥料調整「P.Kマグ」または「Pグリーン」の使用がおすすめです。